

平成27年度 大阪大学 教員免許状更新講習＜必修領域＞

教育の最新事情に関する事項

「教師に必要な新たな気づきと 元気の共有」

自らの教師経験を振り返りつつ、学校教育に関する新たな知見や気づきを、さまざまな媒体・資料を通して獲得し、かつ実践的な演習を通して、具体的な実践的力量をはぐくみ、明日からの教師生活に有益な元気と活力の育成を目指します。

なお、この講習は対面型でもさらにワークショップなどの、いわゆる参加型の演習を取り入れた方式の講習であることを理解されて申し込んでください。

対象者 幼稚園・小学校・中学校・
高校・特別支援学校 教諭

時間数 12時間(6時間×2日)

定員 30名
(最少～最大定員:10～30名)

開講日 12/19(土)9:30～17:30
12/20(日)9:30～17:40

受講料 12,000円

場所 大阪大学 吹田キャンパス
人間科学研究科

※ 講習の詳細内容、スケジュールは裏面参照。

当講習のキャッチコピー

- ①「大学の教師は学校現場を知らない」とは言わせない！
(と大きな態度と小さな声で伝えたい by 阪大・人間科学部スタッフ一同)
- ②講義・演習は楽しく、評価は厳しく。
- ③分解されたバラバラの内容を組み立てるのは、受講者のあなたです。

(注意)

講習内容はやむを得ず変更することがあります。

講習の申し込み期間は平成27年10月27日～11月4日です。

※先着順受付ではありません。修了確認期限が平成28年3月末の方を優先的に受け付けとします。
→定員を超えての申し込みがあった場合は抽選とします。

具体的な申込方法は、大阪大学ホームページの案内をご参照ください。

⇒大阪大学ホームページ 教員免許状更新講習

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/career/teacher/Training>

講習内容

①学校への要望・苦情・イチャモン～教師がすべきこと、してはいけないこと

小野田 正利 教授

いま、全国の多くの学校で、時として学校・教職員と保護者あるいは地域住民との間にトラブルが発生し、するどい対立関係が生じています。要望が以前にも増して過剰になる保護者や住民、その動向に萎縮して身構える教職員。敵ではないのに、互いにいがみ合う現実。

この授業では、そういった背景の分析や、学校側の配慮不足の実態について説明しつつ、ようやく対等にモノが言えるようになった時代の中で、お互いの立場を押し量る力の育成を目指し、ワークショップを組み込んだ形で、「いい関係づくり」のための気づき、あるいは対応がきわめて難しい場合はその「距離の取り方」を学びたいと思います。

②教育的相互行為分析のための新たな観点について

藤川 信夫 教授

授業を含む教育的相互行為を舞台上での演技に見立てて分析するドラマトゥルギー（演劇論、演出論）の基本的な観点を、具体的な分析事例、グループでの討議などを通じて学びます。

この新たな観点を具体的に理解するため、芸術活動によって荒れた学校を建て直したベルリン市のプロジェクト「学校に創造性を」を事例として取り上げます。この事例分析の過程では、子どもたちにとって「居場所」というものが何であり、どのようにして確保することができるのかについて新たな着想をえることもできます。そして、この講習の後半では、グループでの討議を交えながら、受講者自身が、身近な出来事を事例として取り上げ、相互行為分析を行います。

③これからの学習指導要領とICTの活用

西森 年寿 准教授

いつの時代も学習指導要領の内容をめぐる様々な意見が交わされます。この時間では現在の学習指導要領の趣旨の理解からはじめて、教育改革の動向を読み解きます。

また、学習指導要領の変化とともに、重要性が高まっている授業づくりにおけるICTの活用について、最先端の事例を知り、今後の学習環境のデザインのあり方を考えたいと思います。あわせて、学校の危機管理の観点から無視できなくなっている情報セキュリティについても触れたいと考えています。

④学校現場で役に立つ臨床心理学的見方—体験型ワークを通して

大前 玲子
大阪大学非常勤講師

不登校・いじめ・ノイローゼ・心身症・発達障がいなど、さまざまな心理的問題を抱えている児童・生徒に対して、教師は、学級担任として、生徒指導・教育相談担当として、特別支援学級担任として…など、さまざまな立場に関わらなければなりません。

教育現場で役に立つカウンセリングの技法を、参加型授業の中でロールプレイのワークを通して疑似体験をすることにより、臨床心理学的な見方、感じ方や知識を少しでも身近なものとしてとらえ、身につけていくことを目指します。

⑤「やめなさい」ではやめられない—ポジティブアプローチによる介入技法

野坂 祐子 准教授

いじめ、暴力、万引き、非行…児童・生徒の問題行動はさまざまですが、指導してもなかなか問題が収まらない。気がつけば、“必死に”取り組んでいるのは教員だけ！？そんな生徒指導の悪循環を断つために、まずは問題行動の背景にある「ニーズ」を探り、真に求めるニーズを満たす「適切な方法」を具体的に教えていくことが有効です。

「ダメでしょう」「やめなさい」の指導では、人の行動は変わりません。“ダメ出し”ではなく“ニーズの洗い出し”、そして“欠点や問題”ではなく“ストレングス（強み）”に注目するポジティブアプローチを用いた指導方法をワークで学びます。

⑥教育問題を考えるための知識とスキル

知念 渉 助教

いじめ、不登校、問題行動、虐待、学力などの教育をめぐる問題に対して、様々な調査・統計データを用いて現状把握が試みられ、それをもとに教育政策は施行されています。しかし、調査・統計データの収集方法や解釈の仕方を誤ってしまえば、正しい現状把握と対応策を導くことはできません。

この時間では、グループワークを通して具体的なデータの解釈について議論し、教育問題に関する調査・統計データを正しく読み取る知識・スキルを身につけることを目指します。

- ※ 1 1日に3つの講習を行います。各講習の番号は講習順とは異なります。
- ※ 2 試験は2日間とも、最後の30分を使って筆記試験を行います。
- ※ 3 【お願い】昼の弁当を持参してください（昼食時を交流の機会にします）。
- ※ 4 東門（阪大病院側）、千里門からお入りください。自家用車でご来場される方は、ご入場時に必ず入構券をお受け取りください。

[問い合わせ先]

大阪大学 教育推進部教育企画課学務係

(TEL) 06-6879-7947 or 4827 (Mail) gakutc-stu@ml.office.osaka-u.ac.jp